

水産学部附属海洋資源環境教育研究センター年次報告（平成 28 年度）

西 隆一郎

Annual report of Education and Research Center for Marine Resources and Environment, Faculty of Fisheries (2016)

Ryuichiro Nishi

Abstract; Education and Research Center for Marine Resources and Environment, Faculty of Fisheries is conducting educational, academic and social contributions. Introduction of these activities are explained briefly in this report.

Key words; Kamoike Research Facility, Azuma-cho Field Center, Local contribution, Educational activity

1. まえがき

鹿児島大学水産学部附属海洋資源環境教育研究センター（通称；海洋センター）は、鹿児島市下荒田の水産学部キャンパス、垂水フェリーターミナル近くの錦江湾ステーション、そして、八代海に面する長島町にある東長ステーションにより構成されている。本海洋センターには、環境に関連した各種の分析機器や小型船舶、潜水機材などのフィールド調査用の機材が豊富に揃えられ、水産学部および国際連携プログラムの教育研究を担っています。また、鹿児島大学内の他学部や、他大学、そして、その他の研究機関等にも施設公開を積極的に進め施設の利用促進に努めております。さらに、地域の水産業関係者や民間企業等との共同研究を通して、社会貢献にも努めています。

三施設それぞれでは次のような活動を行っています。

●下荒田キャンパス：各種分析機器、潜水機材を整備し、主に環境サンプルの各種分析を行います。

●錦江湾ステーション：各種タイプの水槽で、濾過海水を使った魚類、エビ類などの飼育実験を行います。小型船舶を整備し、鹿児島湾での実習、研究をサポートします。

●東町ステーション：宿泊施設（定員 32 名）、小型船舶（定員 12 名、ただし実習時のみ 30 名）、大小水槽を完備し、養殖学、漁場環境学などの各種実習、漁場環境調査などをサポートしています。

諸施設の詳細は、平成 27 年度の年次報告書に説明してありますので、ここでは省きますが、管理者側としては積極的に施設の利用をお勧めしたいところです。

2. 組織構成

センター長を務められていた小山教授（現；名誉教授）が退職され、平成 28 年度は前田 広人教授が海洋センター長に就任されました。平成 28 年度の所属職員の構成は、以下の通りです。

教 授

前田 広人 （資源利用学、環境微生物学、分子微生物生態学、応用微生物学）

准教授

宇野 誠一 （環境化学）

吉川 毅 （海洋分子微生物学）

特任准教授

奥西 将之

そして、東町ステーションの常駐スタッフとして

助 教

國師 恵美子 （生態毒性学）

技術職員

尾上 敏幸 （技術専門職員）

加世堂 照男 （再雇用職員）

2. 活動実績

平成 28 年度の海洋センター所属教員の活動実績は以下のとおりである。

教授； 前田 広人 分

1.Synergistic Effect of Photosynthetic Bacteria and Isolated Bacteria in Their Antifungal Activities against Root Rot Fungi , Biocontrol science, 21 巻 3 号（頁 173 ～ 177）, 2016 年 09 月, Wei Hongyi, Suguru Okunishi, Takeshi Yoshikawa, Yuto Kamei, Mahmoud AO Dawwoda, Sheila Mae S Santander-De Leon, Sharon Nonato Nunal, Hiroto Maeda

2.Bacterial community composition of sediments from a milkfish *Chanos chanos* Forsskal farm, Aquaculture Research, 47 巻（頁 2569 ～ 2581）, 2016 年 04 月, Sheila Mae S Santander - de Leon, Wolfgang Reichardt, Shielameh Peralta-Milan, Maria Lourdes San Diego-McGlone, Sharon Nonato Nunal, Hongyi Wei, Takeshi Yoshikawa, Suguru Okunishi, and Hiroto Maeda

3.Isolation and Characterization of a Purple Non-Sulfur Photosynthetic Bacterium *Rhodopseudomonas faecalis* Strain A from Swine Sewage Wastewater , Biocontrol science, 21 巻（頁 29 ～ 36）, 2016 年 04 月, H Wei, S Okunishi, T Yoshikawa, Y Kamei, H Maeda

准教授； 宇野誠一分

4. M. Y. Nurulnadia, J. Koyama, S. Uno, H. Amano: Biomagnification of endocrine disrupting chemicals (EDCs) by *Pleuronectes yokohamae*: Does *P. yokohamae* accumulate dietary EDCs?, *Chemosphere*, 2016. 144. 185-192.
5. J. Koyama, S. Uno, Y. Nagai, B. Anukorn: Early monitoring of spilled oil contamination in Rayong, Thailand. *Japanese Journal of Environmental Toxicology*. 2016. 19. 25-33.
6. J. Koyama, S. Nigaya, A. Takenouchi, E. Kokushi, S. Uno: Bioaccumulation of environmental organotin compounds in translocated rock shell *Thais clavigera* in Kagoshima Bay. *Fisheries Science*. 2016. 82. 975-982.
7. 共同研究：田辺三菱製薬株式会社：創薬研究のための小型魚病態誘発モデルの研究

謝辞

本海洋センターの運営に当たり、地域の水産試験場や漁業協同組合、および、民間企業等のご支援とご配慮を頂く機会があり、海洋センター長として深甚の謝意を表させていただきます。

付録；



写真－1 改修工事が済み更なる地域貢献が期待される東町ステーション